

【二位】

テーマ：上野動物園とヤンゴン動物園の差

名前：Zin Linn Nyo

皆さん、こんにちは。ズィンリンニョウと申します。僕は前回上野動物園の園長であった古賀忠道について話しました。そして僕は今、その上野動物園とヤンゴン動物園の差を比べたいと思います。

信じられませんが、古賀園長さんが初めて上野動物園で働く様になった時の事でした。実はその頃の上野動物園と今のヤンゴン動物園の状態をグラフで比べて見ると、なんとほぼ同じだったのです。なぜなら当時、上野動物園では動物たちを小さな檻や部屋などで育てておりました。しかし、その床は氷みたいに冷たく、衛生状態、水、餌などが良くなかったのです。しかし、いくら動物とは言ってもそれは酷すぎます。皆さん、考えてみてください。もしも私達があの中だとしたらどう思うでしょう。皆さんが思う通り、衛生状態が悪くなり病死などになることが多いでしょう。

今のヤンゴン動物園ではほとんどの猛獣たちを岩石やコンクリートの檻などに置いております。しかし、動物たちにも感情があるのを忘れないでください。彼らもそこから脱出したがっているはずです。そのせいか、日本から送られてきた虎の雌が生んだ子供たちも、この難関を逃れられずに亡くなってしまいました。私達の手に入ってからこんな事を迎えてしまった事を悲しく、謝らせてください。しかし、この前にも像、サイ、豹、オランウータンなどの色んな動物たちが死に果てていたのです。今、最も心配なのは、ヤンゴン動物園にいる雌のレッサーパンダです。彼女の檻の中には竹がいっぱい植えており、エアコン4台も付いています。しかし、これだけでは物足りません。元々パンダは寒い中国の北に住む動物なので、雪や針葉樹地帯が必要です。その上、檻の床がほとんどコンクリートなので、衛生状態が98%か、99%も悪くなるのです。もはやこのパンダは死んでしまうでしょう。

その時に、僕は気が付いたのです。上野動物園やロンドン動物園などの外国の動物園みたいに、このヤンゴン動物園をすくすく進歩させるためには、世界中の動物一種類ずつの生態や環境を詳しく調べ、後は動物園で良く飼育することです。こうすることで動物園も進歩し、色んな動物たちを育てられるようになり、観客も多く招くことができます。これでお話しは終わります。

皆さん、最後まで聴いてくれて、どうもありがとうございました。